

## 保育随想

### ★ 春に想う

日本の四季「春夏秋冬」の一番最初の季節である「春」。なんとなく閉ざされていた世界の扉が優しく開かれて、丸まっていた背中もピンと伸びる・・・そんな感じがしませんか？大好きな季節です。草木が芽吹き、冬ごもりをしていた虫たちが地上に顔を出し、活動を始めます。毎年ながら、自然の摂理に驚き、感動をもらい、「生きている」実感を得られる季節です。一方、半月後には年長組の子ども達が旅立ちます。それに伴い寂しさも感じずにはられません。この保育だよりも今年度最終号を迎えました。故森田博前園長先生からの引継ぎとして、9月末発行の回から、私の思いを文字に乗せ、皆さんにお届けできたことをとても嬉しく有難く受け止めております。思い起こせば、4月の頃、新入や進級で子ども達はもとより、お家の方々もそれぞれにいろいろな思いを持って過ごされていたのではないのでしょうか？森田博先生の4月の保育だよりを読み返してみますと、「やってみよう！」の気持ちで動き出した先には心が晴れる世界があると記されております。いかがでしょうか？やってみようの気持ちからの心晴れやかな世界は創造できましたか？ここ庄和すずらん幼稚園で培われたやってみよう！の主体性、できた時の達成感はこのからの生活に必ずや潤いを持たせてくれると信じて止みません。

先日、園生活がカウントダウンに入った年長組の各部屋にお邪魔して、昼食をともにしました。それぞれのクラスの個性あふれる雰囲気の中で大変楽しい時間を過ごしました。とても積極的に話しかけてくれる子どもの陰で、アイコンタクトの中に、「話しかけてほしいな・・・」「こっちに来てくれないかな？」などの気持ちが見え隠れ。そんな中、私が職員室へ戻ろうとした際にとっても小さく折りたたんだお手紙を手渡してくれた女の子がいました。「とらせんせいへ」(笑)。中身はとらせんせいだいすき！でした。スタンプが押されており、明らかに家で書いたものです。小さな手紙に小さな文字ですが、気持ちがとても大きく伝わってきて、私の心は一気に「春色」に染まりました。

三日寒い日が続いた後に、四日温かい日が続くという三寒四温のこの時期、気候だけではなく、人の心も同じかもしれません。いつも同じ状態の心情を保つことは難しい事です。落ち込む日が続いたとしても、そのあとに前を向ける日が続いていったら、「春」はやってきます。そのペースは人それぞれ。冬ごもりが少し長くなっても、ちょっとずつ「春」に向かっていきましょう！

そして本格的な春、4月には年長組は小学校、年少・年中組は進級と、新たなステージが待っています。そのステージ上で子ども達にまた「やってみよう！」の気持ちが芽生え、素敵な花々が咲くことを心より願っています。